

# おやこ通信

## 第25号



日本には四季があります。伝えたい伝統文化があります。「この日本の良さを、子どもたちに伝えたいな・・・」と考え、今回は「行事と行事食」を取り上げてみました。行事食とは、季節折々の伝統行事などの際にいただく料理、特別な行事の時の華やいだ食事のことをいいます。それぞれの旬の食材を取り入れたものが多く、季節の風物詩の一つにもなっています。子どもと一緒に季節ごとの行事・行事食を楽しんでみませんか？

行事名	内容	日付	行事食
1月 正月 (しょうがつ)	本来は、一年の最初の月のこと1月の別名。「正」には「年の始め」という意味がある。	1～7日	おせち料理・雑煮 ※これらを食べるのは三が日
人日 (じんじつ)	五節句の一つ。邪気を祓うために、七草の入った粥を食べ、一年の無事を祈ったのだともいわれている。	7日	七草がゆ 
鏡開き (かがみびらき)	正月の神様に供えた鏡餅を食べ、一家の円満を願う行事。鏡は円満を意味する。	11日	おしるこ 
小正月 (こしょうがつ)	元日を大正月というのに対して呼んだ名。松の内に忙しく働いた主婦をねぎらう意味で「女正月」とも呼ばれている。	15日	小豆粥
2月 節分 (せつぶん)	立春の前日。	3日頃	福豆・恵方巻き
初午 (はつうま)	立春を迎える2月の最初の午の日は、一年のうちで最も運気の高まる日とされている。	8日頃	いなりずし 
3月 桃の節句 (もものせつく)	女の子の節句。	3日	ちらし寿司・蛤の吸い物・白酒菱餅・ひなあられ
春分 (しゅんぶん)	太陽が真東から昇って真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ同じになる日。この日から夏至まで、昼がだんだん長くなり、夜が短くなる。	21日頃	ぼた餅
4月 花祭り (はなまつり)	お釈迦様の誕生日。	8日	甘茶
5月 端午の節句 (たんごのせつく)	男の子の節句。	5日	柏餅・ちまき 

6月 夏至 (げし)	一年で、昼間が最も長く、夜が最も短い日。	22日頃	タコ（関西） *特にこの地方には決まった食べ物はない
7月 七夕 (たなばた)	星祭りとも呼ばれる、願い事を書いた短冊を結んだ笹竹を軒下に飾る。	7日	そうめん
土用の丑 (どようのうし)	7月の土用の丑の日とうなぎを食べると夏バテをしないといわれている。		うなぎ・土用餅 
8月 お盆 (おぼん)	正式には盂蘭盆会（うらぼんえ）と言い、夏に祖先の霊を祀る行事。元々は旧暦の7月15日を中心としたものだったが、現在は月遅れにあたる8月15日が一般的。	15日	精進料理・白玉団子・そうめん
9月 重陽の節句 (ちょうようのせっく)	中国では、奇数は縁起のよい数とされ、一番大きな陽の数である九が重なる9月9日を、「重陽」として節句のひとつとした。	9日	菊酒（菊の花びらを浮かべたお酒）・栗ご飯
十五夜 (じゅうごや)	旧暦の8月15日。お月見、中秋の名月、芋名月とも呼ばれる。年に12~13回の満月があるが、中秋の時は、春や夏に比べると空気が乾燥し、月が鮮やかに見える。冬の月はさらに鮮やかに見えるが、寒すぎて鑑賞するには不向きなため9月の月を愛でるようになった。	H23年は12日	月見団子・栗ご飯・豆・里芋 
秋分 (しゅうぶん)	春分と同じく、太陽が真東から昇って真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ同じになる。春分・秋分の3日前から7日間をそれぞれ春の彼岸、秋の彼岸という。春分・秋分は「彼岸の中日」という。「暑さ寒さも彼岸まで」と言われ、この日を境に寒さが増してくる。	23日頃	おはぎ 
10月 十三夜 (じゅうさんや)	十五夜を中秋の名月と呼ぶのに対し、十三夜は「後の月（のちのつき）」「豆名月」「栗名月」ともいう。	H23年は9日	月見団子・栗ご飯・まめ
11月 七五三 (しちごさん)	数え年で、男の子は5歳（地方によっては3歳も）、女の子は3歳と7歳に、晴れ着を着て神社・氏神に参拝して無事成長したことを感謝し、将来の幸福と長寿をお祈りする行事。	15日	千歳飴 
12月 冬至 (とうじ)	太陽が最も南に来るときで、夏至と反対に、夜が最も長くなる日。この日に柚子湯に入ると風邪を引かないといわれている。	H23年は22日	かぼちゃ・小豆粥
大晦日 (おおみそか)	1年の最後の日。	31日	年越しそば 

